

測定操作は20～37℃で実施してください。

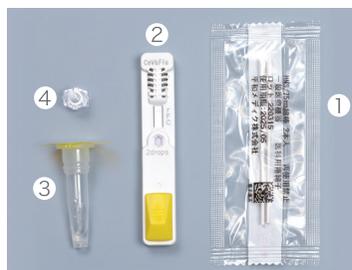
※ 冷蔵庫などで保管されていた場合には、反応カセットおよび検体処理液を20～37℃に戻してからご使用ください。

【用意するもの】

①滅菌綿棒 ②反応カセット

③検体処理液(スクイズチューブ) ④滴下チップ

*20分測定用のタイマー



Step 1 検体採取



鼻腔ぬぐい液の採取方法

滅菌綿棒を、鼻孔に2cm程度挿入し、滅菌綿棒を5回程度回転させます。挿入した部位で5秒程度静置したのち、滅菌綿棒の先端が他の部位に触れないように注意深く引き抜きます

Web サイト



使用に際しては、製品添付文書をよくお読みください。動画やアプリもご活用ください。

検体採取方法と操作判定手順の動画はWebサイトでご紹介しています。
https://www.fujirebio.co.jp/general/otc/el-sars-cov2_flu_AB.html
 QRコードからもアクセス可能です。

製品関連ページ



アプリ

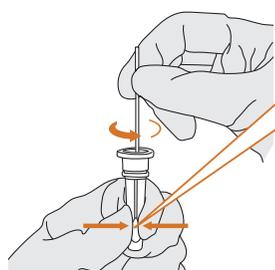


ウィズインフォ

アプリのガイドに従って操作することでエスプラインを簡単にご使用いただけます。また、検出結果を写真に撮って保存やメールへの添付が可能です。



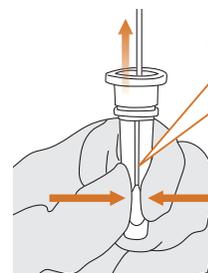
Step 2 試料液調製



チューブ内の綿球を、チューブ外側から指で挟み、軽くもみながら、綿棒を10回程度回転

スクイズチューブの黄色いトップシールをはがして検体を採取した綿棒をチューブに浸して検体を抽出し、試料液を作成します。

スクイズチューブ内で綿球部のもみほぐしが不十分な場合、展開不良(反応むらが出る等)の原因になることがありますので、十分に抽出操作を行ってください。



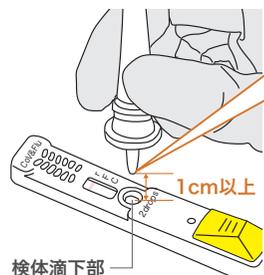
綿棒を取り出し、滴下チップをはめ込みます。



綿棒を取り出し、滴下チップをはめ込みます。

Step 3 測定操作

20～37℃
で実施してください。

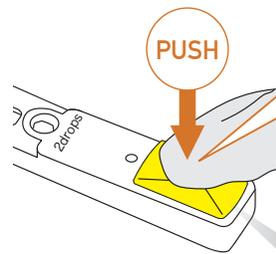


2滴

反応カセットの1cm以上、上から2滴、試料液を滴下します。

1cm以上、上から滴下
 滴下部に近づけすぎると十分な液滴が作れず、適正な量にならない場合があります。

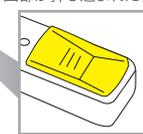
滴下量は2滴
 滴下量は多くても少なくても、結果に影響を与えることがあります。滴下部サークル外へはみ出し等にご注意ください。



試料液滴下後指でしっかりと押し込みます

すみやかに黄色のボタン(凸部)を押し込み、20分間水平に静置後、判定します。

凸部が押し込まれた状態



滴下後すみやかに黄色のボタン(凸部)を押し込みます。(凸部へこむ⇒中の試薬が流れ反応開始)



20分間水平に静置後、判定

裏面の判定例もご参照ください

判定



(r: レファレンスライン / C: SARS-CoV-2 判定ライン / F: A/B型インフルエンザウイルス判定ライン)

*赤色のラインが消失し、青色のレファレンスライン (r) が出現することで、反応が正常に行われたことを確認することができます。

SARS-CoV-2 陽性	インフルエンザウイルス 陽性	インフルエンザウイルス及び SARS-CoV-2両陽性	陰性	判定不能 (再検査)
r・C判定ライン出現	r・F判定ライン出現	r・F・C判定ライン出現	r判定ラインのみ出現	①青色のレファレンスラインが認められなかった場合 ②赤いラインが消失しなかった場合
新型コロナウイルス抗原が検出されました。	インフルエンザウイルス抗原が検出されました。	インフルエンザウイルス抗原及び新型コロナウイルス抗原が検出されました。	新型コロナウイルス抗原及びインフルエンザウイルス抗原のいずれも検出されませんでした。	たとえ、判定ライン (CまたはF) が認められたとしても、青色のレファレンスライン (r) にラインが認められないため、検査結果は無効です。
お住まいの地域の自治体の最新の情報等も確認し、適切に医療機関の受診等を行ってください。			偽陰性 (過って陰性と判定されること) の可能性も考慮し、適切に医療機関の受診等を行ってください。	新しい検査キットを用いて、もう一度、検査を行ってください。

問い合わせ先 ▶ TEL 0120-255-254

受付時間 ▶ 平日9:00~17:30 (土日祝日除く)

この検査の使用について

- 発熱等の感冒症状がみられた場合にセルフチェックとして本キットを使用し、判定結果を踏まえて、お住まいの地域の自治体からの案内にしたがって適切に医療機関の受診等を行ってください。
- 発症からの経過時間によって判定結果が変わりうるため、症状が出てから本キットを使用するまでの時間を記録し、医療機関の受診時に本キットの結果とあわせて医師に伝えてください。
- いずれの判定結果が陰性の場合でも、偽陰性 (過って陰性と判定されること) の可能性があります。
- 特にインフルエンザは、発病初期はウイルス量が少なくウイルス抗原を検出できない場合があることが知られています。

こんなときは? お問い合わせをいただく事例について紹介します。操作前やレファレンスライン発色が遅く感じるときにご参照ください。

	3滴滴下した 多量の液体がキット内に溜まるため、後から展開する展開液の速度が低下し、判定時間内での発色が認められない場合があります。		黄色のボタン (凸部) を押すタイミングが遅れた 黄色のボタン (凸部) を押すまでに時間が空くと正しく展開液が展開されず、反応時間に影響を与える場合があります。
	1滴滴下した 反応時間に影響はありませんが、試料液量が少ないため、判定結果が陰性になる可能性があります。		凸部を押したのちに反応カセットが水平に静置されなかった 判定部全体が青くなる場合がありますので、試料液滴下後は手で持ち上げる等の反応カセットを傾ける操作は行わず、水平に静置ください。
	検体滴下部に近い場所から滴下した 液滴が小さくなり、試料液の滴下量が少なくなる場合や液滴が確認できず、多めに滴下されることで、判定時間に影響を与える場合があります。		低温で使用した 室温が低い場合、反応時間が遅くなる傾向がありますので、必ず既定の温度 (20-37°C) でご使用ください。
	スクイズチューブを斜めや水平に傾けた状態で滴下した 滴下時にスクイズチューブを傾けたり水平にしたりして試料液を滴下してしまうと、試料液が想定より多く滴下されてしまい判定時間内での発色が認められない場合があります。		反応カセットを出したまま長時間放置した 反応カセットをアルミの袋から出したまま放置した場合、カセットが湿気を吸収することで反応時間の延長、若しくは判定不能になる場合がありますので、反応カセットは開封後速やかにご使用ください。